

建築は語る 広島の魅力と復興の歴史を

レポーター ひろ記者 津森正裕、坪島 遊

戦後復興モダニズム建築は広島の魅力の一つ

一広島の建築の特徴は

広島には、戦後復興期に建てられた、シンプルでモダンな建築が多い。戦後民主主義を担った広島県庁舎もその一つ。明るくて住民が気軽に立ち寄られることを求められた当時のニーズを反映した設えが、戦後復興モダニズム建築としての形になっている。



▲広島県庁舎(アーキワーク広島提供)

「ル・コルビュジェが提唱したモダニズム建築や都市像は、戦後復興期の広島に色濃く反映」1950～60年代のモダニズム建築は、被爆建物とともに広島が大切にしなければならぬ財産の一つ」と高田代表。



▲横長窓を持つモダニズム建築の袋町小学校と高田代表

建築はウソをつかないメディア

比治山の山陽文徳殿は戦前の近代和風建築。和風にしながらも窓は西欧的な縦長という点が世相を映している。建築は時代を映す鏡であり、雄弁に歴史を語ってくれる。

建物オーナーとの調整で「建築公開」を実現

一建築公開イベントの概要は

2010年から特別公開の建築を巡るツアーを企画。広島には優れた

建築が多いが、その多くは非公開。高田代表は建物オーナーと話し合い、特別公開の許可を得て、地域資源の発掘を目指したツアーとして企画。約40人が参加した初回ツアーは、基町高層アパート「屋上庭園」～広島商工会議所「原爆ドーム」～アンデルセン「2Fレストラン支配人のお話し」～世界平和記念聖堂「塔の階段」を巡った。



▲基町高層アパート屋上(アーキワーク広島提供)

2015年からは、「たてものがたりフェスタ(広島県が主催)」の一部として参画することで活動の幅、規模を拡大している。

自分の住む街、地域の建築にもっと関心を!

「広島市民は“自分の街にもっと関心を”。」自分が住む街、地域の建築への関心が高まれば、地域、建物への拘りをもつ市民が増える。結果として誇りを持つ街、地域につながり、また活動に参加することで地域のコミュニティが活性化。建物オーナーも建築への認識が高まる効果がある。

今年も11月9日(金)10日(土)11日(日)の3日間で「たてものがたりフェスタ」が開催される予定とのこと。散歩の途中に地元の建築にも立ち寄られてはいかがでしょうか。

「ひろ記者」とは、市民自らが地域のまちづくり活動やイベントなどを取材し発信していく、広島市の市民レポーターです。

▶ <http://www.city.hiroshima.lg.jp/hirokisha/>



らしくコラム

Rashikku column

まずは素敵なネーミングから始めましょう!

私が東京から広島に移住して今年で7年目になる。この間、広島のいろいろな場所で、学生と共に空き家など古い建物を活用したまちづくりワークショップに参加したり主催したりしてきた。またそのなかで、憧れだった田舎暮らしを実現するため、2015年に東広島市福富町に築100年以上経過した古民家を購入し、学生と共に改修して、地域の方々と共にまちづくりを行うまでに至った。広島のまちや自然は素晴らしく充実した生活で、私にとっては第二の人生が始まったような気分である。東広島での古民家改修では、私自身が地域においては移住者(よそ者)であり、できるだけ早く地域の一人として加えて頂きたいと考えたため、購入した古民家の一部を地域に開放し、地域の方々に自由に使っていただく集会場のようなイメージとなるように改修を進めてきた。そしてこの古民家が、田んぼの真ん中に建ち夜は満点の星空が眺められるから、2016年秋の住民ワークショップにおいて「星降るテラス」と名付けて頂いた。この素敵なネーミング『星降るテラス』を住民の方々に名付けて頂いてから、加速度的にプロジェクトが前に進んだように思う。ネーミングは本当に重要なことと思う。

私も『星降るテラス』というネーミングから、様々なインスピレーションやヒントをもらうことができた。その一つに「星」というキーワードから連想された、サン＝テグジュペリの『星の王子さま』がある。「いちばんたいせつなことは、目に見えない」。私たちは大人になればなるほど、教育を受ければ受けるほど身体は社会化され、知らないうちに「いちばんたいせつなこと」に蓋をして、

既成概念に自分を合わせていってしまう。歴史を振り返ることとは、単に過去に位置づけられた事柄をトレースすることでも、それを押し付けるものではない。古民家改修やまちづくりにおいて、今やっている事は本当にそこにある意図を汲み取り、常識や権力にとらわれず自分の感覚に正直に行っているか、私自身の心に問いかけるようになった。

また古民家改修やまちづくりにおいては、たくさんの方々の意見に耳を傾け、集約しなくてはならず心が折れそうになることがある。歴史からたいせつなことを学び、さらに他人に伝え共有するということはなんと難しいことか。しかしこれも『無数の星を眺め、思いをはせる』といったロマンチックな気分に置き換えてみると、楽しく乗り越えることができる気がする。このように「星降るテラス」という素敵なネーミングが古民家改修やまちづくりを進める大きな推進力となっていると思うのである。皆様もまず、素敵なネーミングから始めて頂けたらと思います。何事も楽しくないと意味がないですから。



Profile

近畿大学 工学部 建築学科
谷川 大輔 准教授

■専門領域: 建築設計、まちづくり、歴史的建造物の保存再生
主に東広島市福富町において、築100年以上経過する古民家を購入し、学生と共に改修、まちづくり活動を行っている。その古民家は「星降るテラス」と名付けられている。

ようこそ! 公民館へ

～佐伯区内公民館～

地域のみなさんの学習活動を応援する最も身近な施設「公民館」でまちづくりに関する活動をしているグループをご紹介します。今号は、佐伯区内公民館で活動しているみなさんです。

1 スポーツ吹矢広島西支部こうち

河内公民館

スポーツ吹矢は、河内地区文化祭の時に体験していただいた方もたくさんおられると思いますが、8mもしくは10m先の的に向かって矢を5本吹き、その合計点で競います。的は、中心が7点、外に向かって5点、3点、1点となっています。まず、的に向かって一礼し、両手で吹矢の筒を支え、万歳をする要領でゆっくり上に持ち上げます。このとき息を一杯吸い込みます。8秒くらいかけてゆっくり手を降ろしていき、肺を空っぽにします。的に向いて、空気を一杯吸い込み、ぷっと一気に吹きます。的に矢がびしっと当たり、空気を全部吐き切った気分は爽快です。

呼吸のエッセンスは吸うことよりも吐くことにあり、肺胞の中の空気を要領よく、そして勢よく吹き出す行動は日常ではあまりなく、呼吸の重要性を最も全面に出しているスポーツがスポーツ吹矢です。

毎月2回(第1・3土曜日午後1時～4時)の練習に加え、年数回の試合にも参加しています。また、車椅子での参加者もおられ、年齢、男女の別なく楽しめるスポーツです。是非、皆さんも体験してください。



2 アンニョンハシムニカ

五月が丘公民館

韓国語の学習グループ「アンニョンハシムニカ」はアジア大会を機に始まり、20数年の歳月が経過しました。韓流ブームもあり、一時期は大勢の会員がいました。が、現在は少人数ながら楽しく勉強を続けています。

5年前からは、修道大学に留学生として来日している学生さんに講師を依頼するといった取り組みを始めました。留学生の若い先生から、韓国語は勿論のこと、文化や世情など多くのことを学んでいます。

活動日は、月に2回で第2・4木曜日の午後7時半から9時半の2時間で勉強しています。その他に年数回自分たちで韓国料理を作って食事会も行い、舌鼓をうっています。

韓国語に興味のある方は一緒に楽しい時間を過ごしましょう。



3 五日市リコーダーアンサンブル

坪井公民館

私たちは、「無理せず、楽しく、ゆっくり」とをモットーに、五日市小学校・五日市観音小学校のOGで始めた結成7年のリコーダーのグループです。

リコーダーが大好きなメンバーが集まり、練習を通してそれぞれ仕事・家事などの日常から離れ、音のある生活を楽しみながら、触れ合うことを心掛けて活動しています。年に3回あるイベント参加・発表会などで腕前を披露して、好評をいただいています。

メンバーも広く募集中で、毎月第3木曜日の午後7時から9時に活動しています。見学や体験にぜひお越しください。

初めての方、大歓迎!身近で手軽なリコーダーと一緒に演奏しましょう。



4 座・ソーラン中央

五日市中央公民館

座・ソーラン中央は、椅子に座って足腰の弱い人でも運動ができる健康体操を、多くの人に広めようと、平成19年4月に発足、毎月第1・3木曜日午後2時間練習をしています。タキオソーラン1曲から活動を始めました。

練習成果は地域の行事はもちろん、病院や高齢者施設への慰問を毎月6～7回程ボランティアで行っています。病院や高齢者施設には車椅子の人もたくさんおられ、椅子に座って行う運動は好評で、入所者や入院患者さんに元気を与える活動を行っています。

タキオソーラン、銭太鼓、鳴子ソーランなど椅子に座って演技をするグループは他に無いと思います。1曲から始め今ではレパートリーが21曲に増え在籍人数30名で活動しています。

楽しい健康体操です。私達と一緒に気持ち良い汗を流しませんか?



グループへのお問合せについては、各公民館へお願いします。

- ① 河内公民館 ☎082-928-0219
- ② 五月が丘公民館 ☎082-941-2121
- ③ 坪井公民館 ☎082-921-0812
- ④ 五日市中央公民館 ☎082-921-8070

名人宝人 達人

Interview 1

さまざまな分野の達人たちが登録しているまちづくりボランティア人材バンク。地域活動やまちづくりのお手伝いに、今日も、あなたのまちを達人たちがおうかがいしています。

ながおか こういち
作詞家 永岡 紘一さん

心を大切に作詞し、 後進の指導にも取り組む

作詞家として作品作りをしたり、作詞教室で講師として指導しているのが、永岡紘一さんです。

「学生時代、興味本位で音楽雑誌の歌詞募集に応募していたんです。社会人になり、創作活動する暇もなく過ごしていましたが、定年後に時間ができたので、作詞に取り組むようになりました」と永岡さん。

平成13年に、作詞家の三宅立美先生に師事し、本格的に作詞の勉強を始めました。すると、広島市が募集した「川のうた」や日本作詩家協会の歌詞募集に応募し何度か入選したそうです。平成24年4月には広島市まちづくり市民交流プラザでの活動10周年とプラザ設立10周年を記念し、人材バンクのコンセプト「つながり、ひろがり、達人」を盛り込んだ曲「絆愛」を作詞。人材バンクの林田さゆりさんの歌と、舞ひかるさん、梅田笑子さん、石川旭一さんのバックコーラスで完成し、人材バン



▲人材バンク発足20周年祭(平成29年5月)

クのテーマソングとして皆さんに愛されています。また現在までに、全国発売盤を含め96曲がCD化されるなどたくさんの作品を誕生させています。

「歌作りは、作詞家、作曲家、編曲家、歌手とのチームプレーです。曲の全体をイメージしながら作詞します。演歌を作詞する事が多いのですが、その場合は詞を完成させた後、曲をつけてもらいますが、最近は曲に詞をつけてほしいというリクエストもあります」。

また、平成27年からは恩師の三宅立美先生が講師をされていた作詞教室を引き継ぎ、これまでの経験を基に、作詞する楽しさや難しさを伝えているそうです。

「歌のない人生は、例えるなら、水筒を持たないで砂漠を歩いているようなものです。人の心を癒し、励まし、勇気づけてくれます。また世界の共通語で、最適なコミュニケーションツールのひとつ。これからも、心を豊かにする歌の作詞家として多くの人たちの役に立つことができれば」と、語ってくれました。

永岡さんは、時代がめまぐるしく変わりゆく中で、いつまでも心を大切に活動し、自分と同じように作詞に興味を持つ後進の指導にも意欲的に取り組んでいます。



永岡紘一さん



▲作詞10周年記念祝賀会の様子(平成23年)

Interview 2

みょうあんじ ひやたくみ
明暗寺尺八導主 部屋 拓三さん

何とも言えない気分になれる 尺八の魅力伝え、伝統文化の継承を

奈良時代に、中国の唐から雅楽の楽器として伝来してきた尺八の魅力伝え、後世に残すために虚無僧姿で演奏活動をしているのが、部屋拓三さんです。複数の流派がある中で、明暗寺尺八に入門し、現在まで約40年近く尺八を吹奏しています。

「高校生の時、ラジオから流れてくる尺八の演奏に興味を持ち、自分でもやってみようと思い20歳の時に琴と三味線と一緒に合奏する上田流尺八に入門しました。さらに、江戸時代に虚無僧たちが盛んに吹奏された曲が京都の明暗寺に伝承されている事を知り、ぜひそこで学びたいと思っていました。そして昭和53年、明暗寺尺八の第一人者が広島で指導する機会があり、その時入門し今に至っています」と部屋さんは、自身が尺八に興味を持ち、吹奏し始めた当時は振り返ります。

尺八は、竹の根の部分で作った管楽器で、標準の管長が中国・唐の時代に使われていた長さ、一尺八寸に由来することから尺八と呼ばれています。日本に伝来後は、時代の移り変わりの中でさまざまな演奏形態がとられ、江戸時代には虚無僧



▲虚無僧姿で演奏する様子

が托鉢に用いる以外、尺八の演奏は禁止されていたと言われていました。その後、明治時代に入って一般の間でも演奏が許可されるようになり普及。当時、演奏されていた32曲が今も伝承されています。部屋さんは、古典本曲とされるこの32曲を習得。毎週、尺八に興味を持った人に指導している他、仲間との吹き合わせを行ったり、自ら虚無僧姿で、地域のお祭りや依頼のあったお寺での献奏にも積極的に活動しています。

「尺八は、何時でもどこでも、楽器一本あれば楽しむことができ、自分の間合や呼吸で吹くことができるんです。古い歴史を持ち、吹き継がれてきた曲の数々。いろいろな曲が作られ、自然淘汰されていった中で、今も残る曲を吹奏するのは、何とも言えない妙趣を味わうことができます。今、腹式呼吸で吹く尺八が、健康にも良く、若い女性を中心に人気を集めているそうです。その流れを、広島でも広めていきたいですね」。

静寂の時間が流れる中、澄み切った迫力ある音色で、聴く人の心を魅了する尺八。残念ながら、その尺八を含む邦楽界では、演奏する人たちの高齢化が進み、伝統文化の継承が大きな課題となっています。部屋さんは、少しでも多くの人に尺八が奏でる音の魅力を伝えたいと語ってくれました。



部屋拓三さん(お寺での献奏の様子)



▲仲間の皆さん

まちづくりボランティア 人材バンク達人を 紹介してもらうには…

まちづくりボランティア人材バンクは「自分の知識や技術を活かしてボランティア活動をしたい」達人と「ボランティアで来てほしい、教えてほしい」団体・グループをつなげるシステムです。

現在260名余りの達人が300件を超えるボランティア活動で登録しています。年間350件程度の達人紹介の申込みがあり、日程や活動内容等の条件が整った約300件が活動につながっています。

地域活動や手作りイベントなど市民の皆さんが活動する

中で、「お願い!達人」という時は、お気軽にご相談ください。

1. 人材バンク紹介申込書の作成

どういう団体・グループが、いつ、どこで、誰を対象に、何をやる行事なのか、希望する達人を所定の申込書へ記入します。決まっている項目は空欄のまま大丈夫です。※紹介申込書は、人材バンク登録内容リストや当プラザHP、ひろしま情報a-netから入手できます。

※申込書の作成が難しい場合はご相談ください。

2. 合人社ウエンディひと・まちプラザへ申込み

当プラザへ、FAX、Eメール、郵送、窓口へ持参のいずれかで申込書を提出します。初めて申し込まれた団体や詳しいことを確認したい時には、当プラザより連絡をさせていただきます。

3. 当プラザから達人へ連絡・調整

紹介申込書の提出後、希望する達人へ当プラザから打

診の連絡をし、紹介の可否を確認します。(連絡・調整には、1週間程度かかります。)

4. 申込団体へ達人の連絡先をお知らせ

達人紹介の内諾が得られたら、達人の連絡先をお知らせします。達人との直接のやり取りのスタートです。速やかに正式な依頼の連絡を取りましょう。

5. 活動・イベント等の準備と実施

実施に向けて、達人との十分な打合せを行いましょう。しっかり相談すれば、お互いに良いアイデアが生まれます。いよいよ、活動・イベントの実施です。

6. 活動報告アンケートのお願い

活動終了後、当プラザよりアンケートをお送りします。実施結果や感想、写真、配布資料等を報告してください。その後の紹介に大変役立ちますので、ご協力をお願いします。

まちづくりボランティア 人材バンク発表会

ボランティア登録者が自らの達人ぶりを披露します。気軽にお立ち寄りください。

●日時/毎月第4土曜日 午後2時～3時半
※時間は変更になる場合がございます。

●場所/南棟1階ロビー

●参加費・申込/不要

※当バンクは、政治、宗教、営利目的の活動での利用はできません。※達人紹介は、団体・グループからの単発な活動に限ります。個人活動や長期継続活動への紹介はできません。※達人は、実費弁償ボランティアとして活動します。交通費、資料代、材料費等の実費は、申込団体にご負担いただきます。

開催日時	内容	出演者名
8月25日(土)	民謡とうたおう	元村 操
9月8日(土)	広島市高齢者作品展協賛「人材バンク発表会」 時間:午後1時～4時 場所:北棟6階マルチメディアスタジオ	
9月22日(土)	災害時のたすけあい ～お互いの生命と健康を守りあう救急法の豆知識～	脇谷 孔一(赤十字救急法指導員)
10月27日(土)	笑いヨガ	岡田 正信

※内容・出演者は急遽変更になる場合があります。

ボランティア紹介・登録などのお申込・お問い合わせは…

合人社ウエンディひと・まちプラザ ☎(082)545-3911 ☎(082)545-3838
(まちづくり市民交流プラザ)